

令和7年度本科Ⅰ学期 終業式式辞（令和7年7月18日）

みなさんこんばんは。

新しい学年で4ヶ月が経ちました。それぞれが「本年度は頑張るぞ」と志を掲げてスタートしたⅠ学期だったでしょうが、どうでしたか。まず、始業式だけでなく入学式では専修コースを含め新入生が全員揃い新年度の良いスタートでした。5月1日実施の大阪関西万博では朝早くからの集合でしたがほぼ全員が参加したこと、そして、キンボールによる春季球技大会やアンカーワークショップをはじめ昨年度からの新しい取組を継続できたこと、そして学校内株式会社 NAGAZON の取組において本校生が外部の事業所へ出向きプレゼンした様子について、その方が後日来校され素晴らしいとお褒めの言葉をいただいたこと大変嬉しく思います。

ぜひ一人一人がⅠ学期を振り返り、成長したところ、今後努力が必要なところを明らかにし、これからの糧にしてほしいと思います。

夏休みは普段よりは束縛されることが少ないです。よって、自分の意志が問われる時であり、取り組み方次第で大きな差がつく時です。漠然とではなく、起床時間、食事の時間、就寝時間の「三点固定」をして、生活のリズムを確立させ、何を、いつ、どうするといった具体的な目標を持ち、今置かれている時期に合った「らしく生きる」ことを是非実行してほしいと思います。

本日は偽情報（フェイクニュース）について話したいと思います。明後日20日は参議院選挙投票日ですが、このような選挙、地震等自然災害やパンデミックの際に偽情報（フェイクニュース）が拡散されやすいです。なぜ、フェイクニュースが発信されるのでしょうか。まず、嘘について面白がりたり注目されたい人がいたり、間違った情報を意図的に流しお金を得ようとする人がいるのが現実です。さらには、間違った情報を正しいと確信して拡散してしまう人もいます。誤った情報に繰り返し触れることの恐ろしさを知ってほしいと思います。例えば、もし誰かが「地球に巨大隕石が衝突する」と繰り返せば、君たちは「地球に巨大隕石が衝突する」と信じ始めます。誤った情報を繰り返し聞くことで本当だと信じ込んでしまう。それがいじめ・脅迫につながり人の命までも追い込んでしまうことにつながりかねません。このことは、ここ最近、国内でも SNS による情報により現実に起きています。偽情報を見抜く力がないと、冷静な判断ができなくなります。メディアリテラシー指数の国別順位1位、言い換えれば世界一騙されない国はフィンランドです。日本はというと22位でまだまだ遅れています。

それでは、偽情報を見抜くためにはどうしたらよいでしょうか。まず大前提として、間違った情報は世の中には大量にあると認識することが大切です。そして、新しい情報に触れた時は「それが本当かどうか」1回立ち止まって考えてみるのが重要で、100%事実だとわからないうちは絶対にその情報を広げないことを守ってください。その上で、3つの確認をしてください。まず1つめに「投稿者は誰だろう」という情報の発信源の確認をしてください。次に、生成 AI により画像を簡単に作れてしまう時代です。感情的な言葉や目を引く動画での即決に注意して、画像に怪しい点はないか確認してください。そして1番やってほしいのは根拠の確認です。その根拠は本当に根拠といえるか、その関連情報の確認のために、報道機関の信頼できるニュースがあるのかを確認してください。本日お話したことを意識して、みなさん一人一人がしっかりと「見る目（見抜く目）」をきちんと持ってほしいと思います。

最後に、本科の皆さんにお願いがあります。君たちの学校内株式会社 NAGAZON の取組、授業や挨拶の様子等ほめ言葉はなかなか声として届きにくいですが、しかし、マイナス部分はすぐに声

として届いてしまいます。そういう意味で「最大の広報は、あなたがた生徒自身」です。この夏休み期間中に、是非、出身中学校またはお世話になった施設を訪問して、長商で元気に頑張っている姿を伝えてください。説得力を上げるためにタブレットを活用して笑顔でプレゼンしてください。そのことが後輩への「長商でなら変われる」という希望へとつながります。そして、夏休み中でも夏休み明けでも構いませんので私を含め長商の先生方に「中学校へ行ってきたよ」と報告してくれたら大変嬉しく思います。夏休みには(株)NAGAZON の販売実習がたくさん予定されています。スタッフとしてシフトに入ってくれている生徒は、最高の笑顔でお客様をお出迎えしてお客様がNAGAZON ブースに立ち寄ってよかったと思える応対をしてください。そして、是非、時間をつくって、180 度違うお客として買手の立場で立ち寄ってほしいです。視点(見方)を変えると違ったものが見えると同時に、売手の立場からすると知っている人が顔を出してくれると嬉しいもので元気をもらえます。

さらに、夏休み中には2回のオンラインによる登校日があります。是非、皆さんの笑顔溢れる元気な姿を先生方や身近な友達に見せて安心させてください。1 学期勉強が不調だった人、入試や就職採用試験を控えている人、資格取得に向けて頑張りたいと思っている人、今年の夏は正念場です。全員が「事故ゼロ」で過ごせるようお願い、9月1日の始業式には、一回りたくましく成長した皆さんと会えることを楽しみにして式辞とします。

人には誰にも越えなければならない壁があります。もがき、努力する中で、精神的な強さ、困難に打ち勝つ、そういう力が今必要とされています。

なりたい自分を探すためには、そのための判断材料を増やす必要があります。そのために、この夏休みを活用していろいろなことを経験して人とのつながりを増やしてほしいと思っています。私が本校に教員として勤務した際に出会った一人の卒業生について紹介します。その生徒は昨年春に大学卒業すると同時に兵庫県教員として採用されました。高校時代には、入学当初より自らの意志で何でも挑戦し、大変行動的でした。例えば九州福岡県での豪雨災害被災地ボランティアへ県下の定時制高校生と参加したり、阪神淡路大震災 1.17 復興ボランティアやピンクリボン啓発ボランティアでは、社会人の方々と準備・運営をするだけでなく、街頭で啓発のティッシュ配りを見知らぬ方に実施しました。そんな活動を通して、自身の体力のなさを実感しながらも、挑戦して人と関わることの大切さを学びました。そして3年生になり、新たな先生方との出会いにより商業科目の面白さ、学ぶことの楽しさに気づき、定時制高校生では難しいと言われる日商簿記検定2級をはじめ、全商検定3種目1級に合格しました。そしてそのことがさらに「4年制大学へ進学して学び続けたいという気持ち」と「私も高校の教員になって子供たちに夢を与えられる人を目指したい」という夢へと繋がりました。

出張でその生徒の勤務先によく行くことがあるのですが、決まって挨拶に顔を出してくれます。そして、定時制の長商出身であることを誇りにしています。その象徴たることが他校の校長先生が「定時制高校からでも教員として採用されたことについてすごい、学校へ戻ったらこんな商業高校生がいることを伝え広めたい」と言われたことについて、本人は悔しいと漏らしました。